

第3回三重県立白山高等学校「学校運営協議会」「活性化協議会」 議事概要

令和3年10月28日(木) 18:30～

白山高等学校 2F 会議室

1 あいさつ

白山高等学校長

○活性化の取組についてまとめるということで6月、7月に会を持った。今回は、教育政策課からも来ていただいているので、今後のことについてもお話をいただく。学校は9月休校だったが、10月からは活発に活動を始めているという印象を持っている。インターンシップも今月第2週目からということで動き出した。公開も制限はするが11月には文化祭を実施、12月には修学旅行、地域と協同して行う教育活動、名松線のことや地域プロデュースについても順調に動き出したかなというところ。授業もリモートから対面が変わり、マスク等制限はあるものの、部活動についてもいい方向に向かっている。進路関係についても、コロナ禍ではあるが、例年に遜色のない状況で、希望通りの実現という形でいけている。半面、休みが長くなり出席状況については一部取り戻せない子もいるが、平常を取り戻しつつあることを嬉しく思う。今日は、本校のこと、三重県の動きのことについても意見交換を行う予定。教育政策課に今日の話を吸い上げ、今後のいろんなところで取り上げてもらおうよう積極的なご発言をお願いしたい。

三重県教育委員会

○(教育政策課 大屋慎一 課長)日頃より白山高校の活性化に向けてご協力いただきありがとうございます。今年は、活性化に向けた策定年度に当たり、9校10校舎を回っている。みなさまがたのご意見も丁寧に聞かせてもらって、学校の状況を把握をしながら策定をしている。今回、県の策定の報告もさせてもらいながらご意見も賜り、意見交換しながら今後の策定につなげていきたい。

2 報告事項

(1) 第2回「学校運営・活性化協議会」概要について

○(教頭)配付資料の通り。

(2) JR名松線および近鉄大阪線における要望について

○(教頭) p4、p5の通り。JRにたいしては以下の3点。①名松線一志駅の屋根の設置②列車の扉を1カ所ではなく2カ所開けてほしいこと③家城駅の改札口を増やしてほしいこと、近鉄には無料の自転車駐輪場を設置してほしいこと、以上を以前から要望しているが改善には至っていない状況。

・(津市 垣野委員) 鉄道網の整備期成同盟会の名松線部会で、松阪市、津市とともに要望していく。昨年度は郵送でしか要望できなかったが今年度は白山高校の要望も含めて取り組んでいく。近鉄については、津市の市民交流課が駐輪場を管轄しているのでそちらへ伝えた。

・(校長) 昨年度からコロナ禍を承けて、直通のバスを松阪駅、一志駅から出してもらって

いるので、以前の名松線の混雑を生徒は知らないが、バスの予算が終われば今回の名松線への要望は生きてくる。

(3) その他 ・なし

3 協議事項

(1) 活性化計画について 議長：堀校長

・白山高校における総括的な検証について

○(教育政策課より次期活性化計画について)

これまで今年2回活性化取組の総括的検証ということでご意見をいただきそれをまとめた。これまで取り組んできたことは①授業改善②地域と連携した学び③部活動の活性化④地域に開かれた学校づくりの4つ。その結果地域住民や近隣の学校関係者からは以前と比較して「安心して学ぶことができる学校」「部活動などが活発になり生徒が元気に活動している」などの評価を得られるようになった。また生徒の入学後の満足度も高くなってきている。しかしながらその評価が入学者数の増加には結びついていない。地域の少子化、交通環境の脆弱さなどの背景はあるものの多くの中学生が本校を第一志望にする状況にはなっていない。その改善のために引き続き活性化の取組が求められる。少子化の進行によりさらなる小規模化が予想されるなか、入学定員減に伴う教職員定数の減少が進めば多様化する生徒への対応、学びのニーズに対応することが困難になっていく。地域に必要とされる学校としてさまざまな教育ニーズに対応し、義務教育段階で不登校を経験した生徒や学び直しを必要とする生徒を含めて全日制への進学を希望する生徒を幅広く受け入れ、地域での学びを通じて社会の中で自立し、社会に参画することのできる人材を育成するという本校の役割を今後さらなる少子化の中で維持していくためには、本校単独での取組だけでなく津市、松阪市、伊賀市名張も含めて地域全体の視点から、地域全体の高校の学びのあり方とそれを実現していくことのできる学校の規模と配置、配置学科の再編などを考え、そのなかで今後の本校のあり方が検討される必要があるとまとめた。

・小規模校における活性化の取組

(教育政策課より)

○9校10校舎の活性化の取組のまとめをまとめたうえで、さらにそれを総括的に検証したものをあげた。

・県立高等学校の活性化について

(教育政策課より)

○p26からの資料。県議会の委員会に提出したもの。これからの基本的な活性化の考え方を示した。社会の変化にともなって教育的ニーズも多様化している状況がある。来年度から新しい学習指導要領が実施され、高校生の意識の状況や選挙権年齢や成人年齢の引き下げという高校教育を取り巻く状況を踏まえて、県立高校活性化の基本的な考え方をまとめ

た。これからの時代を生きていく子どもたちが、変化を前向きに捉え、課題と主体的に向き合いながら自ら学び、考え、多様な人々との協働を通して持続可能な社会の創り手となっていくことが求められる。高校教育が果たしていかなければならない学びについて、県立高校の活性化の柱となる考え方を5つにまとめて整理した。すなわち、①自律した学習者を育てる学び②これからの社会の担い手となる力の育成③誰一人取り残さない教育の推進④人口減少に対応した学びの推進⑤子どもたちに必要な学びの実現に向けた教職員の資質向上と学校経営改善。

これを少子化のなかでどのように実現していくのかということについて、9校10校舎の総括的検証のまとめの中で示した。次の3項目。①活性化の取組②生徒の進路実現③入学者の状況。

①について各学校では、地域住民、企業、行政の支援を得ながら地域と高等学校の連携・協働体制が構築され、地域を学びの場とした学校独自の課題解決型学習や地元企業等でのインターンシップ、地元小中学校との交流など、地域とより密接に連携した学びが進められた。また、課外活動として、地元中学校や企業等と連携した地域活性化の活動、地域でのボランティア活動に取り組む学校もある。学校が所在する市町からは、地域学習での支援を始め、通学の利便性向上のためのコミュニティバスの運行や運賃無料化等の支援、海外研修に参加する生徒への経済的支援、大学進学者への給付奨学金設立などの支援が実施されている。

②について。一人ひとりへの丁寧な指導を通じた継続的な学び直しの取組による基礎学力の定着や地域の支援を受けた補習等による大学進学の実現などの成果があった。地元企業へ就職した者の割合は概ね維持されたが、生徒数の減少の中で就職者数は減少した。

③について。地元中学校からの進学者の割合は概ね維持されたが、地域の中学校卒業生数の減少もあり、入学者数は減少し、令和3年度に定員を見たいしている小規模校は1校（あけぼの高校）にとどまった。活性化に取り組む前の平成29年度と比較すると、令和3年度の小規模校全体の入学者数は平成28年度の782人から574人に減少、入学定員の充足率は88.9%から77.0%に低下し、入学者の増加までには至っていないと総括した。

以上から今後について、地域の中学校卒業生数の減少が見込まれる中、これまでのような形での小規模校の学びを維持していくことは難しくなると考えられる。このため、地域全体の視点から子どもたちの学びのあり方を考え、地域と連携した学習などの小規模校が培ってきた学びを何らかの形で継承することも含め、今後の少子化の中でのよりよい学習環境について検討していく必要があるとまとめた。

これらを承けて、各地域高等学校活性化推進協議会（伊賀、伊勢志摩、紀南）で活性化の総括的検証を共有し、すでに今後の地域の高等学校や学びのあり方について協議しているのでそこでの意見を紹介する。

- ・中学生や保護者に学びたい、学ばせたいと思われる高校でなければ生徒は集まらない。少子化に伴って高校の小規模化がさらに進むことで、地域内のすべての高校が活

性化できなくなることを危惧している。高校の再編統合を通して子どもたちの学ぶ環境を整備していかなければならない時期に来ているのではないか。

・小規模校の取組や教育内容は魅力的ですばらしいものであるが、入学状況から判断すると、子どもたちに選ばれていないのが現実である。高校には子どもたちが望む学びの選択肢を備えることが大切であることから、高校の再編統合もやむを得ないのではないか。

・小規模校は活性化に懸命に取り組んできており、地域にとっても高校の存在は大きい。今後も小規模校が特色化・魅力化をさらに進めていくという方向性のもと、県外からの入学者をより多く集めることができるよう取り組んでいくべきである。

・地域の中学校卒業生の多くが都市部の高校へ進学する背景には、地域の高校に魅力がないからではなく、小学校や中学校よりも大きな集団の中での学びを求める生徒や保護者の意向がある。一方で、小規模であるからこそ地域の高校を選ぶ生徒が一定数いることにも留意すべきである。

・再編統合を検討する際には、県内唯一の学びや地域に少ない学科を維持していく観点、生徒の通学状況、交通機関の状況をふまえるとともに、配慮を要する子どもたちの行き場がなくならないようにする必要がある。

・地域内で進学できる高校が1校のみという状況 …これは紀南高校のことだが…を避けるため、他県で実施されている分校や校舎制の事例も参考としていくべきではないか。

・これまで小規模校が地域と一体となって実践してきた地域を学びの場とした学習については、子どもたちに地元愛を育む地域独自の教育として今後も継承していくことが必要である。

これを承けて、これからの県立高校での学びについて考え方を示したい。

①高等学校は、生徒の個性を生かし能力を伸ばしつつ、予測困難な時代において、人間らしく豊かに生きていくために必要な力を育み、持続可能な社会の創り手を育成する役割を担っている。

②そのため高等学校は、生徒の興味・関心を高める教育機会の提供に加え、集団での学びや学校行事・部活動などを通じて生徒同士が切磋琢磨し、多様な価値観に触れ社会性・人間性を育てていくことのできる教育環境を確保していくことがより重要となる。

③小規模校活性化の総括的検証に加え、15年先までの中学校卒業生数の減少の状況をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の県立高校の配置を継続することは難しい状況にある。これから求められる学びを提供する高校の規模と配置については、各高等学校活性化推進協議会での議論等をふまえた地域全体のグランドデザインと学びのあり方とともに検討する。

もはや一校で活性化を語るということではなくて、地域全体の中で学びのあり方、ある

いははそれを実現していける高校のあり方を、それぞれの地域で協議の場を設けてやっていきたい。

(各委員からの質問・意見・提言等)

○高校の適正規模というのはどういう考え方か。生徒同士が切磋琢磨し、多様な価値観に触れ社会性を育むと言われると、生徒数がすくなくないとダメだととらえてしまいがちになるが、白山高校を考えるのに、生徒は人数としては少ないが、地域の人とのふれあいの中で人間性が育まれている、そういう学びができるということは白山の絶対的な強みだと思うので、県内唯一の学びというかそういう環境を備えているのは他にない。全国的に見ると岡山の和気閑谷高校や山形の小国高校、島根の隠岐島前高校といった高校を見ていて、そういう所の学びというのは全国であるし、人が増えていくような取組だったので、白山のよさを考えて、生徒数（が多いこと）が適正（規模）ということにはならないのではないかと感じる。

○（教育政策課）適正規模というのは県によって設定しているところとそうでないところとがある。8割ぐらいの県では設定されている。だいたい4学級以上というのが多い。三重県では活性化計画の中では（1学年）3学級以上と設定されている。

○（校長）県内の中学校卒業生数が平成元年から令和3年までの間に半減している（3万人弱から1万5千人あまり）。これからも減少が見込まれる中、このままだと県立高校がすべて小規模校になってしまう。そういうことも含めてお考えいただければありがたい。

○（教育政策課）これからの県立高校での学びの中で、「地域全体のグランドデザインと学びのあり方」とあるが、活性化協議会もそうだが、それぞれ各地域のみなさんの力を借りながら子どもたちの育成に向けてご尽力をいただいているのはよくわかるし、実際子どもたちも育っている。地域のとって欠かせない高校という思いもよくわかる。そうした中で非常に難しいのは、地域の方々から見える学校像とは別に、地域を広く（上から）見てみると地域の全体像が見えるのだが、この少子化の流れの中で、このエリアの子どもたちの学びをどうとらえたらよいのか、という次の視点が見えてくる。この大きな視点がどうしてもこれから必要になってくる。それは急激な子どもたちの減少ということ、このまま学校を残していったときに、すべての学校が2学級3学級の規模になっていくのが見えている。これをよしとするのならそれもありだが、子どもたちのニーズを考えたら小規模ではできないクラブ活動があったりとか、学びが細っていく可能性がある。もちろん、2学級、3学級だからこそできる学びもある。このエリアで考えたときに何が本当にいいのかという議論を始めなければならないギリギリの局面になっているというのが「地域全体のグランドデザイン」ということの心である。そのように将来から白山高校を見たときに、白山高校に対してどんな思いでなにをしていかなければならないのか、白山高校のことがこの地域全体で話し合うときにどのように写るのか、そういうことをこれから白山だけでなくすべての学校で、少し上から見れば久居高校や久居農林高校、津市内の学校も視野に入っているが、その中で、みんなで子どもたちをどう育てようかという視点になる。こう

いう視点で見た上で、白山高校のことをどうするか考えてみてご意見をうかがえればありがたいと思う。

○（校長）現在の県内の生徒の現状を見ると、津市であれば市内の中心部に普通科の高校が集まり、かつそのすぐそばに工業高校と商業高校もあるという状態。そこへ名張・伊賀や松阪、伊勢から吸い寄せられている。一方津市内から四日市へ出て行く生徒もいる。小さい規模の学校が必要ないなら都市部のいくつかの学校だけにすればいいという極論もありうる。みんな自分の学校に愛着を持っていて、地域の方や卒業生の方の特別な思いもある。そんななか、この高校の分布について少し視野を広げて（鳥の目で）見てみる必要がある。白山から見てどうなのか、また津市全体から、三重県の全体からみてどうか、といった視点や、特別支援教育や外国にゆかりのある生徒の学びに関する視点など広くご意見をいただきたい。

○子どもが主役ではあるのだが、少子化がどうなるか見通せない中、学校という器は必ず必要で、その学校を、卒業した方々が学校へ来るか、活用しているか、と考えたときに特に何もしていない。たとえば資格取得のために体育館を貸してほしいとか（生徒だけではない）幅広い地域の人たちがさまざまな目的に応じて活用する場として地域の人たちから知られるということがあれば、地域に学校が必要だ、大事な存在だということになる。学校が主役になるという発想があってもよいのではないか。

○たとえば地域の方が、講師となってさまざまなノウハウを伝えるような授業もあればおもしろいのではないか。自分がこの白山の地域に来たとき、100軒ほどあった世帯が今は80軒に減少している。高齢化が進んで、子どもたちも来年小学校に入学する子が一桁になりそうだ。そのなかで、中学校を出てここに来るかといえば難しい。地域の方もたくさんみえたらできるけれども、施設に入るような方が大変増えているので、そうなると思うのかなと思う。

子どもの受験の話職場の人と話をしていたら、相手の人は白山高校からそんな学校へ進学できるのかという態度で、そのように白高は見られている。将来の進学のことを考えている保護者から見たら（白山ではなく）違うところに行かせたいと思われているのが現状ではないか。

○かつて（数十年前に）美杉の小学校に赴任したとき、美杉は分校を含めて小学校が10校あった。久居の学校へ行った後美杉の学校へ戻ってみたら学校は3校になっていた。最後の卒業生7人を送り出して美杉は1校になった。美杉の小学校の統廃合を見てきたのだが、学校としては大人数の中で学習させたい、保護者もそう願っている、学力を付けてやりたいという気持ちもある、地域としては学校がなくなると困る、そんな思いもある。学校の立場からすると、地域の思いと教育委員会の求める部分があり、地域からすると地域で協力できることと地域の人間として再編統合といったことにどう関わるかといった2つの面があるのだが、地域の方の熱意とか思いとかを感じながらも世情に抗えずにそうやっていった（学校を統廃合していった）のを美杉でも他の地域でも見てきた。美杉が中学校自体も

存続できるかという状況の中、無くしてはいけないという思いが地域の中にどれだけあるかと考えたときに、保護者も子どもたちに学力を付けたいという思いからの動きなので、本当になくなるという状況になったときに地域がどれだけ動けるかということが大きいですが、自分のことを考えたときにどう動けるか、と自問する部分がある。地域全体のグランドデザインという話が先ほどあり、県下全域を見渡しての活動がどれだけできるか、地域が先にどれだけ動き出して発信していくことができるかが問われるのではないかと。

○自分の上の子どもたちが小学校の時に既に少子化は進んでいて、白山の小学校の統合についての保護者会がもたれるなどの話が出たことがあったのだが、将来的にはそうなるという可能性があるのでしょうか。保護者として当時思ったことは今こども園（当時は白山幼稚園・白山保育園）だが、そこで一緒だった子どもたちが中学校でまた一緒になるけれども、小学校も1カ所で学べたらいろいろなことが学べるんじゃないかなということ。

○津市の話だが、今白山の地域の子どもたちが減っていく中、美杉や一志は統合しているので、いつかはそのような（統合の）話にはいくのだろうが、地域の方の思いとか、保護者の方の思いもあるので、今すぐということにはならない。みなさんのお話を聞きながらその方がいいということになればそうなるだろうが、今の段階では未定。

○小学校が1つになって高校と交流などがあれば小中学校の子どもたちがここ（白山高校）へ目を向けるのではないかと。

○（校長）牟婁地区の経験では、小規模校ゆえに卓球やソフトテニス是可以するが、サッカーや野球はできないということがあった。サッカー部をつくるだけの部員、顧問がいない、施設がない。紀南高校が木本高校と一緒にしても維持するのは難しい。生徒が学びたいこととやりたい部活動が校内ですべて両立できる選択肢を用意できればよいが、それは小規模校ではできない。だから、学校を特色化してできることを極めて魅力化しましょうというのが現在活性化協議会のおかれている9校（10校舎）。これからどういうスタイルの学校を選ぶのか、ご意見をいただいてそれを三重県はどんな高校の配置にするのか、三重県のグランドデザインを県は作ろうとしている。ぜひ多くのご意見を求めたい。今、白山高校で取り組んでいる名松線プロジェクトも白山高校がなくなったら名松線自体が存続できないのではないかと危惧を持つ。そうするとそれが別の地域の産業を潰すことにつながっていく。いろいろな視点からご意見を。

○社会人の学び直しを白山高校で行うということではできないだろうか。おじいさん、おばあさんが高校生とともに学べるというふうになれば、高校入学人口は、高齢化のメリットを活かせるのではないかと。

○聴講生という形でも。

○大学でも、学生でもなんでもないおじいさんが勝手に入ってきて学んでいる方がいる。白山のような小規模校で、あそこまで行けばわしでも学べる、高校生がやれるというものもどうか。一緒に文化祭も体育祭もやって、先生に叱られてというような。

○ここ（白山）を残してほしいという立場で話しているのだが、美杉を外から見ていると、

街から移住してくる方で町が活性化しているように見えるが、白山はどんな魅力があるのかとここに住んでいる立場で考えてみると、どんな魅力があるのだろうと感じてしまう。美杉でやっているようなことを個人的にいろいろやってみたいと思うようなこともあり、白山高校に、学校として残ってほしいという気持ちはあるが、白山高校がやっている地域を活性化し、生徒の社会性を育てるということが地域にどれだけ根付いて、地域がどれだけ危機感を持っているのかなと感じる。

○（校長）若い夫婦が住む地域を選ぶときに重視するのは学校と病院。白山高校がなくなると移住する人も減り、病院もなくなり、人々は住むのに便利なところに出て行くという流れになる。白山高校は隣に病院があり、小学校があり、少し離れて中学校がある。つまり住むために必要なツールは揃っている。消防署や交番、ショッピングするところなどコミュニティは成立している。それが白山地域の強みではないか。だから応援していただけるし、他所から来ている生徒たちも温かく受け入れてもらえている。

○人口も少子化になっていく中で、「このクラブだけは白山高校はすごいんや」といったよいイメージがあれば生徒も来るであろうが、アンケートでは入学したときにはよいイメージの生徒たちが卒業するときには「あまりよくなかった」と答える生徒たちがいる。生徒の感覚で魅力に欠けるところがあるのか、HP などを見ての期待が現実には思ったよりもよくなかったというような生徒の気持ちもあっての回答なのかなと感じる。

○（教頭）アンケートの見方に誤解があるようだ。現3年生の「入学してよかった」という回答は入学時66人が3年で80に増え、現2年生では82人が88に伸びている。中学校の進路の先生からは、これまで白山高校を希望する生徒は第1希望から第3希望までほとんどいなかった、一桁だったのだが、最近は第1希望にはならないまでも第3希望までにはたくさんいるという状況だとうかがっている。以前は行きたくなかったけど来たという白山高校であったけれども、今は第1希望ではないが希望には入っていた子が入ってきている。現1年生に至っては96%が納得している。ただ、現3年生が（白山高校に入学してよかったかに対して）「ぜんぜんそう思わない」に10%いることは気になるが、行事の縮小や修学旅行が行けていないことなどが影響していると考えられる。

○白山というとレベルも低いし、昔のイメージもよくないというのもあって、行かせたくないという保護者の気持ちが多いから、入れたくないということになっているが、今は昔と違ってイメージもよくなっている。ただ、アピール力がもう一つというところを感じる。こういう所が良いというアピールができれば第1希望で行こうという気にもなる。

○以前上の子どもが中学3年の時の学校説明会で、白山の説明を聞いて保護者が「えーっ」と言ったことがあった。他校がこれだけ進学できますとアピールしている中で、白山は、うちは一つしかありませんとかマイナスにとらえられるような説明で、（保護者の中では）白高はちょっとなという意見が多く聞かれた。就職に関しても地域密着型などの説明は受けただけでも、多くの保護者は卒業後苦労しなくてすむようにそれなりに大きな所に行ってほしいしというように思っているので、就職も（そのような大手が）あまりないのなら

白高よりはそれなりに（そういう企業に）行けるところに行かしたいよねという反応だった。そういうイメージは今も続いているんじゃないか。就職もいいですよとか最近はこういう所へ行けていますよといったアピールがあればよかったんじゃないか。

○先日教頭先生に来ていただいて中学校で進路説明会をしたが、進学について他校と比べれば差はあるかもしれないが、学校生活の様子や取り組んでいることなど映像などを用いて白山高校のいいところをわかりやすく伝えてもらって好印象だった。

○中学生を見ていると、白山高校のイメージはまだ以前の印象が強い様子がある。保護者の話などの影響もあるのだろうが。私自身はイメージもよくなっていて、もっとアピールしてそれをどうやって子どもたちに届けるかという点について検討をしてもらえたら。先日のオープンスクールでも参加した生徒は「いろいろな作業をさせてもらったし、校舎は質素だったけど、勢いがあった、活発だったという印象を受けていて、感想にもすごくよかったと書いていた。実際に見てみるとそういうことがよくわかるのだが、オープンスクールに参加する子が少ない。だから、卒業後どんな進路をたどっているのか、どんな生活を送れているのかなど、先輩方に来てもらってこんなことができているよとアピールしてもらうことなども考えてみてもよいのでは。ある保護者の話だが、娘が看護師になりたいという夢を持っていて部活の関係もあって私立高校に進学したのだが、久居高校にやればよかったと話されていた。久居高校が看護師に強いということの後からいろいろな方面から聞かれたとのこと。学校としての強みがあればそれを見て集まる生徒は出てくるので、白山高校も学校としての強みを一つ持っていると思えば集まる生徒も多いのではないかと思った。

○（校長）看護大学に合格できる。ぜひ中学校の先生方に公開講座のような飾れる授業ではなく、普段の授業を見に来てもらいたいと考えている。

運営協議会の議事

（２）各種アンケート調査について

・学校生活（生徒向け）

○あいさつをすることや遅刻をしないことや学校のルールを守れるかといった項目は現在白山高校生にとってあたりまえになってきているので、入学してよかったかとか満足しているかといった点について紹介する。

- 1 スマホの使用…使用時間は3時間以上ということで非常に多い。
- 2 入学してよかったか…年々上昇。現3年生が66、2年生が82、1年生が96。
- 3 学校生活への満足度…特に1年生のマイナスの回答が0%であること。
- 4 白山高校の「地域を愛し…」…数値がもうひとつあがらない。が、1年生の数値はあがっている。中学校での説明会でキャリア教育を強く伝えていることが数値に現れている。
- 5 インターンシップ…1年生、2年生の数値があがっている。名松線がらみの話なども

伝えていることが功を奏していると思われる。ただ3年生にはコロナ禍の影響がみられる。10月から今年度はじめてインターンシップができるので数値の伸びも期待できる。

6 学びなおしの授業…1年生の60%と数値が高い。生徒の学びなおしの意識の結果によると考えられる。

7 授業への集中度…1年生の選択肢③④（マイナス評価）が極端に少ないところに意識の違いが見て取れる。

8 授業への要望…1年生の資格免許への意識が高く、2年生の基礎学力への意識が高い。

・保護者

・教職員

・学校運営協議会委員（地域）

（3）学校自己評価（中間報告）について

・学校マネジメントシート

・分掌マネジメントシート

○ユニバーサルデザインの授業のこと、卒業生を招いての講演会のこと、人権学習のこと、登下校指導のこと、あいさつ運動のこと、命を大切にする教育のこと、3年生長期インターンシップのこと、キャリア教育のこと、就職状況のこと、不登校（気味）生徒への対応のこと、美化活動（家城駅）のこと、情報発信のこと（川口小学校の生徒との名松線プロジェクトのこと）、校内研修のこと、困難状況にある生徒を支援するための情報共有のこと（ケース会議、児童相談所の方を招いての会議、不登校気味の外国籍生徒への対応のこと）、保護者のカウンセリングのこと、教員の働き方改革のこと。

（4）教育課程など、その他に関する要望等について

・令和4年度入学生の教育課程

○（教務部）学習指導要領の改訂に伴い、これまでになかった授業も出てくる。太枠が必修科目。他は学校が独自に設定している科目もある。特徴としては、生徒の多様なニーズに応じて選択科目を充実させた。2年の選択S、3年生の選択A、B、C、D。選択Aは情コミ科も。来年の1年からは新たに普通科で「基礎数学」情コミ科で「ビジネス技術I」を独自に開設した。就職を控えてどうしてもつまづきがちな義務教育段階の算数・数学の計算の所、それを早い段階で苦手を減らしてほしい。2年3年の数学にもつながる。「ビジネス技術I」は、文部科学省の設定科目だけでは難易度が高かったり、いままでは取り組めなかったり手が届きにくかったりしたところを充実させるために、新たに開設した。教員の数が減る中で、教員の持ち時間数が増えたり、分割授業を続けていったりする大変さはあるが、基礎学力の部分授業の中に入れることで少しでも学び直しの機会を確保したいと考えた。

○（校長）次の1年生は、入学時に端末の購入が義務づけられる。三重県では貸与ではなく、購入。本校ではクロームブックを活用した学びが行われ、無線LANや教室へのプロジェクター等の設置、教員のスキル研修など準備が進んでいる。新しい教育課程や調査書の

書き方（ポートフォリオの活用）などで使用されていく。新入生の保護者負担も増えるなか、多様な生徒の在籍する本校でうまく活用していけるよう準備を進める。

○個人購入なのか。同じようなもの（端末）を既に持っている生徒への対応はどうなるのか。

○様子を見て対応できる対応できるものについては対応するがそうでないものについては購入していただく。

○補助はでないのか。

○生徒の状況に応じて出るが、県からはまだその線引きは示されていない。生徒が困らないように対応する。未定の部分はあるが、新入生が困らないよう情報を発信していく。

（5）その他…なし

○（教育政策課より）ご意見ありがとうございました。本当に苦しい状況がやってくる、三重県だけではないが。三重県全体で苦渋の選択をしなければならない。学校がなくなると地域が細っていくということについては、自分の経験からもよくわかる。みなさんのご意見の通りだと思う。一方で、子どもの学びをどうするかという点。地域にとって大切な子どものこと。将来どんな育ちになっていくか、地域の人たちは将来戻ってきて地域を支えてほしいと願っていると思うが、子どもの学びをどう支えていくのがベストなのか、統合されたりなくなったりした学校が今もあったとしたらそれがよかったのか、なくなった高校が続いていたらそれがよかったと言えるのか、正直わからない。しかし、今みなさんが思っているようなことを考えていくということがすごく大事で、子どもをどう育てるかということ、大事な子どもを大事に育てることが大前提で、そこから高校はどうあるべきかを考えることが必要である。先ほど話に出たアピールということはとても大切だが、そのときに忘れてはならないのは何をアピールするのか、何のためにアピールするのか、だれにアピールするのか、そしてそれを何につなげたいのか、それを振り返ってほしい。我々はアピールするとき、学校のよさをわかってもらって子どもたちにこの学校を選んでもらいたいということを想定しながらアピールするはず。その結果、学校が活発になってなくてはならない学校に育つということを含めながら考えるアピールでなければならない。どんな取組がなされている学校としてアピールするのか、どの部分をだれにどんなふうにアピールするのかを深く考える必要がある。ここの学校の取組がどうこうという前に、情熱はすごく感じられる。この情熱をどういうふうにしていくか、ということが分かれば道になる。それでも結果はどうなるかはわからない。しかし白山を含めてすべての学校が一生懸命やるべきだと考えている。さらに子どもたちが減ったときに、どこの学校をつぶせないと思ってもらえるように三重県の高校全体が高まることが大事で、そのときにみんなで知恵を絞って将来の子どもたちのことを考えながらどれを選んでも子どもたちにプラスになると思えるような環境を目指していく。みなさんの思いを受け止めながら考えていくつもりだ。

4 連絡事項

(1) 次回の日程について

- ・こんにゃく講習会（地域交流部会）

令和4年1月13日（木）5・6限実施

- ・「総合的な探究の時間」成果発表会（キャリア教育・地域交流部会）

令和4年1月20日（木）5・6限実施

○2年生の地域との学びの発表と3年生の名松線の学びに対する取組の発表を行う予定

- ・第4回 学校運営・活性化協議会 令和4年2月24日（木）18:30 から

(2) その他